

虚子記念文学館投句特選句

・令和七年六月

稲畑廣太郎 選

夕焼や明日を探しに日の沈む

京都

西村やすし

蚊遣香果て一夜さの夢終はる

大阪

多田羅紀子

蚕豆の空を吸うては膨れたる

兵庫

吉村玲子

明易や夢のかけらの白みゆく

兵庫

足立朱麻

師の庭の声は幻女王花

東京

柿崎典子

懸案をしばし忘れて豆の飯

兵庫

永沢達明

吹き下ろす風を広げてゐる植田

東京

荒川ともゑ

穀象のあわてさわがず備蓄米

大阪

北上美佐子

明易し寝返りの間の夢浅し

兵庫

高市敦之

ヒコーキが上下上下飛ぶすずし

滋賀

太田 慈

（青少年）

入選句・令和七年六月

資本論順に居眠り夏期講座	埼玉	小田毬藻	誘蛾灯闇より光そして闇	兵庫	池田文子
陰掬ひゐしが日向を夏の蝶	岡山	石井宏幸	バス通り泰山木の花明り	大阪	徳永由起子
花栗の丹波を抜けて芦屋句座	京都	杉森大介	隠れてもわかる青梅容ち良し	香川	三好ようこ
万博の大屋根リングに沿ふ暑さ	兵庫	深尾真理子	木下闇蔭の奥行曲り行く	香川	藤田敦雄
植木鉢上げれば螻蛄と目の合ひぬ	兵庫	藤丸千香子	万緑の中へとけ込みゆく心	三重	松村咲子
雨音に螻蛄の眠りの深きこと	兵庫	武田優子	万緑の裾のなだれて兵庫の津	兵庫	前田容宏
見る程に動き愛らしおけらかな	大阪	西尾浩子	掘り出せばころり丸まる根切虫	石川	辰巳昌彦
土を搔く螻蛄にも小さきたなごころ	兵庫	中村恵美	緑蔭に養生中の鹿の群れ	大阪	山田佳音
心宥めつつ苺をつぶしつつ	香川	葛原由起	梅雨の雲並ぶ巨匠画セピア色	三重	吉川博子
翻る黒の一閃夏つばめ	兵庫	涌羅由美	京めざす鯖街道の花卯木	大阪	奥野千草
私より螻蛄に詳しき息子かな	兵庫	窪田真由美	紫雲英摘む紫束ね香を束ね	大阪	室田妙子
映りたる空に咲きたる花菖蒲	香川	三宅久美子	植ゑ替への足元ひらり夏の蝶	兵庫	小川孝子
沸きかへる決勝進出夏至夕べ	兵庫	辻 桂湖	黒南風に星めく明り虚子の館	岡山	奥山登志行
水湧きて流れとなりぬ花菖蒲	香川	多田まさ子	万緑や腕の細き阿修羅像	兵庫	岩鼻絹子
一枚の書の仕上がりて新茶汲む	石川	辰巳葉流	万緑の天上くぐる芦屋川	兵庫	平田 恵
俳磔に樹齡さ揺れて青葉かな	大阪	林 曜子	この国の昭和百年の蛍かな	大阪	富永武司
万緑の濃淡に陰貼り付きぬ	香川	湯川 雅	白寿なる叔母の桃色夏帽子	茨城	杉山 満
炎天を見る図書室の高き窓	新潟	安原 葉	師の庭の扉に蜘蛛の囲のかかる	兵庫	日下富貴子
秘湯へと人を導く誘蛾灯	大阪	須知香代子	今朝晴れて老鷹のしきり鳴く	大阪	谷本房子
法要の人影絶えて蛍の火	東京	清水ぽっぽ	邸の黙解く朝光合歓の花	兵庫	奥田好子
グミ口に抛れば臉に薄暑光	千葉	鹿野川小舟	ぽこぽこと出るわ梅雨茸傘差して	奈良	河村久美子
滝道を山伏駆くる風のごと	奈良	堀ノ内和夫	結界の橋をくぐりし岩燕	大阪	若林友子
台風に合ふ画数の姓を足し	富山	三河三可	青鷺の次の一步の躊躇かな	大阪	立入宮子
神様はつがひ阿蘭陀獅子頭	大阪	押見げげげ	前世は多分でで虫雨が好き	三重	池本準一

一献の肴釣果の鮎を焼く
大阪 河辺さち子

中庭は俳徒の聖地万緑裡	兵庫	玉手のり子	梅雨晴やひかり数多の須磨の浦	愛知	海神瑠珂
カフェの初夏テラス席から埋まりゆく	三重	中島庸子	翁の像一つ飾られ梅雨座敷	兵庫	松本 敬
梅雨めける米騒動の収まらず	兵庫	宮本露子	慎みの八本足や半夏生		森重深鶴
朱の欄干奥は室生寺万緑裡	大阪	勝山禮子	万能雲形定規と飲むビール	大阪	棕本望生
紫陽花のミヤクミヤクの色青と赤	奈良	山口廣世	一人でも寂しくないや蝸牛	兵庫	長谷川敬子
漕艇の声一列に蘆茂る	石川	白根寿子	父の日や古ネクタイの眼鏡入れ	兵庫	西尾登志子
万緑や一切衆生抱きをり	大阪	田邊育子	芦屋川風さみどりに蘆茂る	兵庫	伊藤秀子
万緑の六甲近き虚子館へ	兵庫	柄川武子	良く観れば白い紫陽花紅ほのか	兵庫	道中義臣
虚子館にそよぐ俳句の風五月	兵庫	伊東伸子	夏痩せの父を気遣ふ太る母	兵庫	天下明太郎
ミスターの訃報五月雨止みもせず	兵庫	谷本逸歩	文庫本胸より落ちし籐寝椅子	兵庫	松本 守
浮舞台朱の欄干の蝸牛	奈良	堀田建夫	わづかなる晴間を低く梅雨の蝶	兵庫	高橋純子
椿子物語涼しく語られて	埼玉	樋口レイ子	豆腐屋のラッパの緩く邸茂る	兵庫	辻田あづき
ITのぞめく万博大夕焼	奈良	堀田ますみ	明日の色あさつての色七変化	兵庫	藤井啓子
車夫の背の揺れ軽やかや若葉風	大阪	ふじもと言果	緑蔭の風呼ぶベンチ人を呼ぶ	鳥取	棕 則子
勝利より傷を案ずる五月闇	兵庫	森岡喜恵子	病葉の紆余曲折といふ着地	鳥取	棕 誠一朗
日輪を背負うて雨を待つ蝸牛	大阪	石橋玲子	ナガシマの逝きて昭和の終はる初夏	兵庫	町田葦たか
泰山木仰ぎて恃む人のふと	兵庫	黒田千賀子	伽羅路の煮詰まる匂ひ厨口	神奈川	斉藤苑子
一条の草書を残し蛍の火	大阪	杉山千恵子	蜘蛛の囀か絹の白布か植込みに	兵庫	西村みどり
渦潮の海面を渡る夏の蝶	兵庫	高野さち	夕光を編み込んでゆく蜘蛛の糸	兵庫	二瓶美奈子
セキュリティーマンション生れ油虫	兵庫	小柴智子	夕端居遠見の角の駒の音	滋賀	近江堇花
一輪の夏萩風に見え隠れ	鳥取	前田 千	闇深くして蛍火の息遣ひ	兵庫	岩水ひとみ
庭先の赤の映ゆるやゼラニウム	兵庫	小林昌子	君と飲む冷酒甘し二、三杯	兵庫	寺坂正子
ジーンパンの臍出しコーデ夏に入る	兵庫	上岡あきら	サングラス越しの色彩海岸線	兵庫	山口貴史
昼寝覚かなしいほどに美しき	三重	水越晴子	花菖蒲いのちを賭した立ち姿	兵庫	伊集院秀樹
揚羽蝶クラブのキングすべり落つ	兵庫	風待ラテ	雲海の高野へバスの数珠繋ぎ	和歌山	中島紀生

夏椿今宵かぎりの白さかな	兵庫	福田光博
雨だれのピアノ四葩に囁いて	神奈川	小林 心
潮騒の通りぬけゆく夏座敷	兵庫	惠島祥一朗
「世間とは君ぢやないか」と桜桃忌	神奈川	平野孤舟
阿蘇火口天道虫の巡回す	熊本	貴田雄介
ロールパンたまご甘いね夏木立	滋賀	太田怒忘
万緑や子の貝殻のやうな爪	愛媛	星月彩也華
贅肉を落としきつたる滝行者	愛知	小野 薫
明やすや積荷少なき貨車の過ぐ	兵庫	キートスばんじょうし
紙面には中東兵火沖縄忌	奈良	豚々舎休庵
ほうたるや寄り添へばまた離れたる	兵庫	太平楽太郎
水無月を求め京都の夏暖簾	兵庫	矢車星風
夏列車風捲りゆく旅の本	東京	宮村土々
芦屋うまれ芦屋そだちの墓	神奈川	進藤剛至
歩に合わせあまた舟虫散り隠れ	神奈川	金子三奈乃